

### 3年 「すがたをかえる大豆」～「習得」編～

3年生では、「内容のまとまりで段落を作ること」や「段落ごとの関係に注意して文章の構成を考えること」をめあてに単元を構成しました。



単元のはじめには、栄養教諭から「すがたをかえる食べ物」を紹介する文章を作してほしいという依頼がありました。この依頼をクイズ形式で子どもたちに示すことで、単元全体の流れを理解し、学習に対する見通しや必要感を持って取り組むことができました。さらに、教室には「すがたをかえる食べ物」に関する本を置き、自由に読めるようにしました。子どもたちは本に親しみながら「びっくりした!」「もっと知りたい!」と関心を高め、その意欲が説明文「すがたをかえる大豆」の学習へと自然につながっていきました。



次に、説明文の内容をくわしく読んでいきました。1学期に学習した説明文「こまを楽しむ」で確認した「はじめ・中・終わり」それぞれの役割をふり返りながら内容を整理しました。そのことを通して、子どもたちは段落ごとのまとまりを意識しながら読み進めることができました。

さらに、整理した段落のまとまりの順序性について考えました。筆者がどのような意図をもって事例を並べているのかを意識できるように、事例ごとにカードに分けて提示し、その順序を並べ替える活動を行いました。そうすることで、事例をつなぐ接続語の役割についても考えることができました。活動の中では、「大豆のすがたがわかりやすい順番になっている」「読んでいる人がわかりやすい順番になっている」「へえ～と思う順番に並んでいる」などの声があがりました。この場面で印象的だったのが、子ども

ここに小林先生の本時画像が入る予定です。なければ木本しかばね時画像が入ります。

もたちから「じゃあ僕は、今調べているお米すがたの変化を、先に〇〇、次に△△の順番で紹介しようかな。」などの声が自然と聞かれたことです。単元の序盤からゴールを示し流れを共有し、目的を持って読む活動に取り組んでいるからこそその言葉だと感じました。

ここまでを活用場面として学習しました。次回は、説明文を読んで習得したことを使って、実際に「すがたをかえる〇〇」について書く活用場面についてお知らせします。